

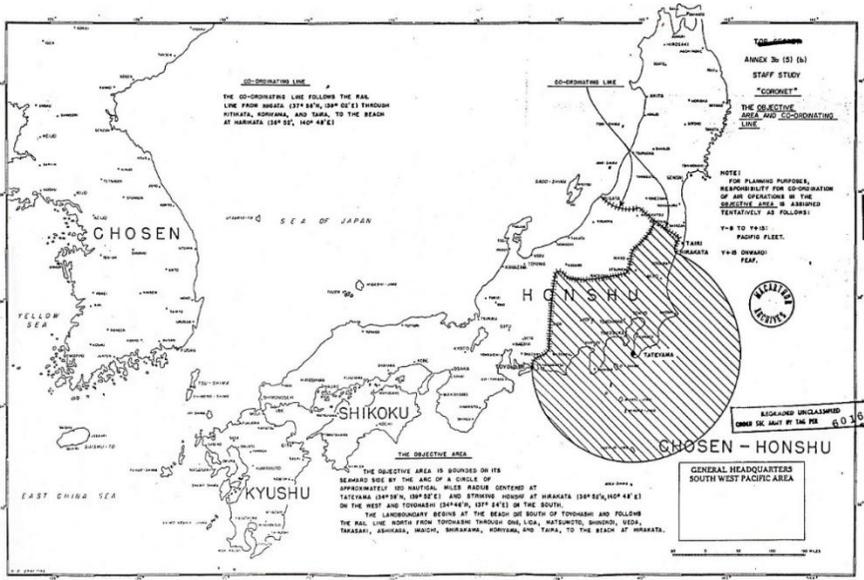
D-2 コロネット作戦とアメリカ占領軍上陸

●アメリカ軍の本土侵攻作戦計画「コロネット作戦」

アメリカ軍の日本本土侵攻作戦計画「コロネット作戦」では、関東一円をターゲットとし、その中心地は館山を指している。立案に際して作成した「日本各県マニュアル(千葉県第一分冊抄)」の序文には、「このマニュアルの基になっているデータは 1945 年7月1日現在、カリフォルニア州モントレー駐屯地で入手した情報を含む」と記されている。

モントレーは 20 世紀初頭に南房総のアワビ漁師が移住した地であり、この作戦の情報源とたと考えられる。一方、故郷の房総では敵軍上陸にそなえ、女性も子どもも竹やりを持って戦闘の準備をし、家族は引き裂かれていったという。

➡ p.42



●敗戦後、占領軍の館山上陸

1945(昭和20)年8月15日以降、館山では軍人たちが「敵の謀略だ、決起せよ」とクーデター騒ぎを起こし、しばらくは混乱していた。なかでも、厚木にやってくるマッカーサー機撃墜計画もあり、大本営から阻止する使者もやってきたほどであったという。

8月30日には、米第8軍のクロフォード少佐率いる海兵隊235人が先遣隊として館山上陸し、市内の軍事施設を制圧した。裸体に短パンで腰に拳銃をつけた兵士もいたという。このとき強奪・強姦・暴行など30数件が館山警察により立件されている。

戦艦ミズーリ号の降伏文書調印式の翌日、9月3日午前9時20分に総括指揮官カニングム准将率いる陸軍第8軍第11軍団112騎兵(機動)連隊戦闘団(以下、112RCT)の正規軍約3,500人が館山上陸した。上陸の写真は館空の水上班滑走台跡で、対岸の稜線が館山市の船形山とわかる。赤山地下壕内に書き残された「USA」の朱文字は、米兵が書いたのではないかと推察される。アメリカの作家ノーマン・メイラー(1923-2007)は、占領軍として館山上陸し、その後銚子に移動したと証言している。ハリウッドの人気俳優タイロン・パワー(1914-1958)が館山市内をジープで回っていたという目撃談もある。



占領軍が上陸した水上班滑走台跡（下写真は現在）

●幻の「三布告」

9月2日降伏文書調印式後の夕刻、GHQは日本占領政策「三布告」を通告してきた。「日本国民ニ告グ」で始まり、日本政府を飛び越え国民を直接支配下に置こうとするもので、その内容は、①英語を公用語②軍票B円を日本法貨③軍事裁判による死刑というものであった。政府から阻止の特命を受けた終戦連絡中央事務局長官の岡崎勝男は、深夜に横浜のホテルに潜入してマーシャル参謀次長に直談判し、未明に「公布延期」の回答を取り付けた。さらに重光葵外務大臣がマッカーサーへ直接交渉を経て、正午に中止が決定した。



●本土唯一「4日間」の直接軍政

しかし、9月3日に上陸した占領軍は、本土で唯一の「直接軍政」を館山に敷き、4日後に解除している。占領軍の折衝窓口として、外務省の館山終戦連絡委員会が設置された。安房医師会長であり館山病院副院長の川名正義は、市民代表としてカニンガム司令官と直接交渉にあたっている。穂坂与明院長は姻戚関係にある渋沢栄一の渡米時に侍医として随行した国際人でもある。館山病院は明治期より地域医療の中心にあり、戦時下には墜落し流れ着いた米軍パイロットの遺体を検死し葬っているという。➡ P.40

館山の直接軍政は、戦後日本のスタートにあたり、試金石となるようなモデル占領であったかと推察される。4日間のみで軍政解除となった理由は不明であるが、医師たちの存在が大きかったのではないかと考えられる。10月には館山病院内に英会話教室が開かれ、市街地には米兵向けスーベニアショップ（土産物店）が開かれている。当時西岬小学校の教員であった高橋博夫（元館山市教育長）は、懇意となった米兵を学校に連れて行って模擬授業を行なったという。

